

## 本時のねらい

・音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくろう。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・自分自身で音を選択し、視覚や聴覚で音の感じを理解する。  
 ・何度も繰り返し聴き確認することで、音の感じの違いを感じ取り、全体で共有する。  
 ・視覚で確認することで、音の動きやつながり方の特徴を理解する。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ロイノート    ・F i n a l e    ・Song Maker

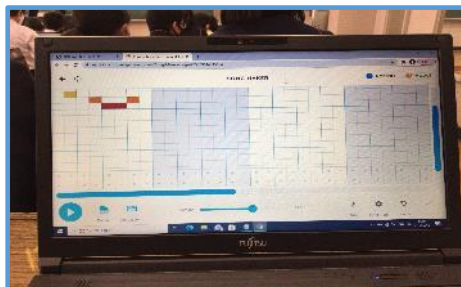
## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを提示する。</li> <li>・音のつながり方や進み方（上行・下行・跳躍進行・順次進行）など、ロイノートの画面配信を使用して端末上で一斉に確認する。</li> <li>・自分の作りたいイメージをワークシートに記入する。</li> <li>・Song Maker の使い方をロイノートの画面配信で確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音のつながり方カードをロイノートで作成しておく。</li> <li>・注意させたいところや分かりにくいところを書き込んだカードをロイノートのテキスト機能で事前に作成しておく。</li> <li>・音階やリズムなどを記入していく。（ドの位置や1マス0.5拍であることなどに注意することなど）</li> </ul>
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Song Maker を使用して自分が入力したいリズムを入力する。</li> <li>・入力したものを聴いて確認しながら修正を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの音がドであるのかを、説明して確認しておく。</li> <li>・リズムを入力したり音を選択したりして、自分のイメージに合った音を選択するようになる。</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近くの人と曲を聴き合い、自分のイメージに近くのように手直しをする。</li> <li>・イメージに近づいたもののURLカードとイメージを書いたカードをつなげて、ロイノートで提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージに近くのようにどのような音のつながり方をしたのかを言語化できるよう活動を行う。</li> </ul>

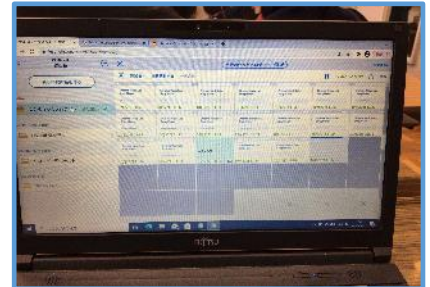
## 1人1台端末を活用した活動の様子



ロイノートで画面配信をして Song Maker の使用方法を聞いている様子



Song Maker へ旋律を入力している様子。



作成したものをロイノートで提出し、全員で共有している様子。

## 児童生徒の反応や変容

「紙に書いて考える」だけでは、どんな音でどんなリズムで…と曲の感じをイメージしづらいが、実際に音を鳴らすことができることによってほとんどの生徒が主体的に活動し、創意工夫しようとしていた。

楽しみながら創作活動することができていた。ただし、そこにリズムやつながり方といった音楽的なルールを理解して音符として表すことは少し難しかった。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・Song Maker は音を視覚的に捉えることができ、容易に旋律をつかって鳴らすことができるので創意工夫して音楽活動の学習に取り組むことができた。ただ、延ばす音やタイなどを設定することができないので、音符とリンクさせて活動することが難しい点もあった。